東北大学機械系
同窓会ニュース
第８号

東北大学機械系同窓会
〒980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
電　話：(022) 217－6926
ＦＡＸ：(022) 217－6926
E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/
郵便振込口座
番号　02270－8－11176
名称　東北大学機械系同窓会
印刷　東北大学生活協同組合

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。
◎　年会費　2,000円

工明会大運動会

工明会大運動会、工学部の学生にとっては非常に楽しみな行事のひとつだろう。一年に一度の工学部全体での行事であるとともに、各専攻が研究室の枠をこえてひとつの団体として参加する。他にはないことである。なかでも機械三専攻では運動会の位置付けが他系の専攻とは少し違っているように思う。大人げないほどに本気で優勝を狙いに行く。機械系のプライドだ。機械系内でのライバル意識も強い。これまで残してきた好成績もこの〝大人げないほどに本気〟のおかげであり、またそこにこそ運動会の楽しみがある。皆で力を合わせ本気で闘う。皆で喜び、皆で悔しがる。機械三専攻はこの楽しみを知っているのだと思う。

さて、今年も本番当日（五月二十三日）天気は良好、運動会日和である。開会式も終わり競技が始まる。第一種目の三人三脚、我が機械知能は幸先良くトップでゴール。電子、航空、地球、量子など、強敵は皆順調なすべり出しのようだ。ムカデ競争では最大の敵である地球工学科専攻をゴール前で抜き去り鮮やかな勝利だった。しかし後半戦に入り雲行きが怪しくなる。運動会の華ともいうべきミス工明会ではどの専攻も完成度が高い。どこが一位になるか閉会式まで全く予想が出来なかった。続いて運動会のメインともいうべきリレー二種目と綱引き。高得点が得られるこれらの種目で勝つことが出来なければ総合優勝は見えてこない。順調に高得点を重ねていく地球、量子とは対照的に、知能はリレーで予選落ち、綱引きでは知能、電子、航空ともに決勝に進出することも出来なかった。結局最終結果はリレー、綱引きで高得点をあげた地球工学専攻が総合優勝、ミス工明会で優勝した量子エネルギー工学専攻が準優勝となった。機械系は知能が三位と健闘したものの、電子と航空は残念ながら着外（六位以下）という結果に終った。惜しくも〝例年通りの結果〟とは行かなかったものの各専攻の個性とノウハウを十分に発揮できた良い運動会だったといえるだろう。来年はぜひとも機械三専攻で上位を独占し、優勝の美酒に酔いしれて欲しいと思う。

熊野　弘之
（機械知能工学専攻）

平成十四年度　機械・知能系オープンキャンパス

平成十四年七月三十日、三十一日の両日、工学部において毎年の恒例行事となっておりますオープンキャンパスが開催されました。機械・知能系（機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻、地球工学専攻、量子・エネルギー工学専攻、情報科学研究科からの協力講座においては、テーマを「人と機械のハーモニー」とし、六十八の研究室からの出展がございました。見学者は今年度末に受験を控えた高校生が多く、両日とも、制服を着た高校生らで青葉山は賑わいました。宮城県以外にも、他の東北地方の各県や関東、北陸、中部、近畿地方の県、遠いところでは山口県、香川県から来訪してくれた高校生もおり、その熱心さが伺えました。また、来年度研究室へ配属予定の本学二年生も熱心に見学しており、説明する側の学生も是非優秀な後輩を自分の研究室へということで、説明にも力が入っていたようです。今年度の見学者数は（機械・知能系受付で配布したパンフレット数から換算した数。地球工学、量子エネルギー工学は受付が別であったため、この中に含まれておりません）、初日は九百名の見学者がございましたが、二日目は三十度を超す猛暑ということもあり五百五十名と前日に比べ減少致しました。しかし、計千四百五十名であり、昨年度の千百名を大きく超えることができました。これも東北大学への期待、特に機械・知能系への期待の大きさを反映しているものと思われます。

さて、見学者の方々には、アンケート用紙をお配りし、東北大学にまた来てみたいか、どの展示に興味を持ったか、また逆に興味を持てなかったか、良くないところ変えて欲しいところはないか等、質問をしております。もう一度見学に来たいかとの質問については、今度は入学して自分が説明者になるというものも含めて、百％「また来たい」との回答を頂いております。興味も持った、持てなかった研究室に関しては個々で感じ方が極端に異なるようで、どちらにもエントリーされる研究室がかなりの数ございました。ただし、ロボット、ロケットといったところが機械・知能系を見学に来た高校生の興味の的のようでした。意見等に関しましては、説明者の声が小さい、もっとハキハキして欲しいとの要望もございましたが、全体的に丁寧でわかりやすい説明であったとのお褒めの言葉が多く見受けられました。見学者の方々には、多かれ少なかれ、機械系における研究内容に興味を持って頂いたようです。　最後に、今回のオープンキャンパスに来てくれた小・中・高校生が、将来、我々の仲間として東北大学機械系の一員となることを期待し、オープンキャンパスのご報告とさせて頂きます。

小川　和洋
（破壊制御システム研究施設）

南アフリカに駐在して

坂水　久之
（精密工学科37年卒）

私は一九六八年から一九七二年までの四年間を日産自動車のヨハネスブルグ駐在員としてケープタウンや金、ダイヤモンドの生産国として有名な南アフリカ共和国で過ごしました。国民投票によって人種隔離政策が終焉する三十年以上も前のことで、世界に類を見ないアパルトヘイト（人種隔離政策）が行われている国で仕事と生活の両面の貴重な体験をすることになりました。一九七五年にＪＡＬのロンドン支店におられた深田祐介さんが書かれた〝新西洋事情〟に当時の日本人駐在員がどんな悲喜こもごもな体験をしたのかがユーモアとペーソスを交えて見事に記述されております。

私としての南アフリカでの収穫といえば人間の心の中に奥深く住み着いている〝差別〟という感情をより深く考え、その感情をどのようにコントロール出来るかを考えるまたとない機会となりました。

南アでの人種差別は人間をその肌の色により区別することで成り立っておりました。まさに恐ろしく、おろかなことと言わねばなりません。いくつもの法律によって人間は白、カラード（有色）、バンツー（アフリカ原住民）に区別され、社会生活を営むさまざまな権利が法律によって制約されていたのです。日本人は肌の色こそ有色でしたが法律によって〝名誉白人〟とされほぼ白人並みの扱いをうけていたものの白人種との恋愛や結婚は違法とされておりました。私が南アに居りました間はなぜこんなことが正当化されるのかさっぱり判りませんでしたが、その後のアメリカ駐在で南アのシステムの現実的な選択の理由をより深く理解するようになりました。私の見た米国は南北戦争のあと、憲法に〝自由と平等〟をかかげ、これを理想とする国家となりながら、今日なお社会の深いところに並々ならぬ差別を温存している社会だったからです。アメリカの歴史の中にＫＫＫによる黒人の無差別殺害やキング牧師の暗殺がありますが、南アの開拓史の中にはアフリカ原住民による白人入植者の大量殺戮の歴史があるのです。これらが理由無き差別の結果起こったものであることは疑う余地がありません。

今日でもなお世界のどこかで人種や部族の間での戦争が絶えません。日常的な生活の中ではいじめやセクハラの話が絶えることがありません。いったい何時になったら人類はこんなおろかなことから開放されるのでしょう？　子供たちにどんな教育をすればこのような悲劇を繰り返さないですむようになるのでしょう？

私ののべ二十年にわたる海外生活の中でいろんな国がこの古くて新しい人間の課題に取り組むのを見てまいりましたが良い答えが見つかりません。南アフリカ駐在が与えてくれたこの課題を生涯考え続けてゆくことになりそうです。

機械二十二年卒同期会

私ども機械工学科昭和二十二年九月卒業生というのは、他の二十二年九月卒業の方々と同様に最後の東北帝国大学卒業生でした。終戦後まだ二年目で、厳しい就職難の世の中であり、卒業して直ぐ就職できた者は幸運の部類でした。

同期会を開こうという気運はそれまで何度かあったようですが、仲間が全国に散らばっていたこともあって、なかなか実現には至りませんでした。

昭和五十六年に、東京在住の青山翠君が世話役として音頭をとって同期会が計画され、十月に十六名の参加を得て卒業後三十四年振りに懐かしい会合を開くことができました。

これを契機に今後は極力毎年開催することとされ、大体が東京地区で開かれましたが、秋保温泉や飯坂温泉など若き日の曽遊の地に集まった事もありました。特に、昭和六十二年には卒業四十周年を記念して仙台で開催することとし、五月に十二名が参加して旧機械・電気工学科の懐かしい建物内を見学し、往時をしのぶとともに、しばし感慨にふけりました。

このようにしてほぼ毎年開催されてきましたが、平成五年世話役の青山君の思い掛けない急逝により、しばし中断してしまいました。しかし、これではならじと平成七年三月やはり東京在住の川口邦供君の呼び掛けで同期会は再開され、平成九年九月に卒業五十周年を記念して八名が作並温泉に集い再会を喜びあいました。

最近では平成十二年十月に東京で三年ぶりに開催されましたが、このころになると何人かの仲間が鬼籍に入り、また身体の不調を訴える者も多く、参加者は残念ながら五名でした。しかし、参加者は皆元気でお互いの健康を祝うことができました。

話題は旧制高校時代からよく登った北アルプスの三千メートル級の山岳踏破の雄大な物語から、炭鉱災害調査で危うく二次災害を免れた話など多岐にわたり、最近の世相に対する批判から新聞報道を巡る意見など出て、久し振りに青春時代に戻ったような気分でした。

また、ご多分に漏れず、現在各人が持っている成人病とその対処方法などお互いの貴重な経験談は大変参考になるので一同熱心に聞き入ったことでした。

写真はその時のものです。

今後の同期会の開き方についても相談したところ、例え人数が少なくなっても継続しようと、三年後に次回を開催することとなりました。したがって、次回は平成十五年に開催される予定になっています。

田　中　　博
（機械工学科22年卒）

機械三十年卒同期会

青葉輝き、すがすがしい初夏の風が吹き渡る五月の日に、青葉三十機友会の平成十四年度総会ならびに懇親会を大相撲夏場所で賑わう両国国技館近くの相撲茶屋、ちゃんこ「江戸沢」で開催しましたのでその概要について報告いたします。

開催日時　五月二十五日（土曜）十八時より
場　　所　相撲茶屋、ちゃんこ「江戸沢」
出 席 者　現在会員数、五十名中三十名出席（会員二十五名、ご夫人五名）

総　　会　十八時三十分より

大谷幹事の司会ではじまり、最初に出席者全員で記念写真を撮った。

次に今春、故人となられた山本雄三氏のご冥福を祈って黙祷をした。

新世紀不況は、大量生産、大量消費に裏付けられた近代工業社会が終わり、時代が変わったから、最近の日本経済は、底を打ったと言われていますが、閉塞感は相変わらずの状態であると大橋会長の開会挨拶があり、規約に基づいて役員選出の議事に入りました。

会長、幹事の交替が提案され、次年度からの役員は、次の通り満場一致で承認されました。

会　長　伊藤　茂生氏
幹　事　大野　繁氏、大森　和美氏、主藤　武夫氏
事務局　植西　晃氏（留任）

また、大橋会長から、五年間やらせていただきましたが、今回をもちまして会長職を降ろさせていただきます。長い間、ご協力、ご支援を有難うございましたとの挨拶があった。

次期会長の伊藤さんから抱負と就任挨拶があり、事務局植西さんからは、会員名簿などの説明がなされ、総会は無事終了した。

懇親会　十九時より

はじめに、高原昭二さんによる乾杯の音頭でにぎやかに開宴となった。

ちゃんこ鍋を囲んでフリードリンクと美味しい料理を食べながら、大谷幹事の臨機応変の名司会進行で各自の近況報告などを行い、一年振りの再会に寛いだ楽しい雰囲気で、会員相互の親睦を図ることが出来ました。

ハーブ栽培をしていて、ハーブティーを作って持ってきてくれた外山さん、海外旅行でハプニングに遭われた鎌田さんの話、今回欠席したが、皆さんに全身経絡図を配ってくれた猪瀬さん、地域社会の企画運営委員として〝平和を考える講座〟などで積極的にアピールし、行動している大谷さんの話など、われわれの同期会は、これからの人生が豊かになるように、自然体で今の生活に密着した話とか、年輪を感じる内容のあるスピーチが多かったことは、出席することに意義を見出し、今後も会員が多数参加し盛会を期待できると思いました。

また、会を重ねるたびに、出席されたご夫人の皆さんもクラス会のように、リラックスしてお話を交わしている様子が伺えました。

次回の幹事を代表して、主藤さんから、関西地区での開催と時期について話があった。

時期については、来年の秋の紅葉の頃実施する方向で考えることになった。

幹事さん心づくしの景品で、はじめての試みでもある福引大会を行い、宴会は盛り上がった。

二次会　二十一時より

二次会には、殆どの人が居残った。ウイスキーの水割りを飲みながら、打ち解けて話がはずみ懐かしい応援歌「勝利の歌」で締めくくり、二十二時三十分お開きとなった。

終わりに、「皆さんが、楽しく集まるために何かをしよう」というインタレストを盛り込んで、今回の企画運営をしてくれた泉山さん、大谷さん、大村さんの幹事一同に感謝しながら、通算第二十回の青葉三十機友会便りといたします。

大　橋　清　喜
（機械工学科30年卒）

機械二十五年卒同期会

古き誼（よし）みや温めん

二十五年卒は二〇〇〇年に卒業五十周年を迎えた。記念事業として『ＤＺ随想集』を発刊した。（昭和二十二年入学なので二が二つ重なるのでドイツ語をもじりＤＺ会と同期会の名称をつけている）

卒業時四十名の学友も物故された学友十二名、現在は二十八名である。（内一名は消息不明）二十七名全員が寄稿して随想をつづり、古き誼みを温めた。日本の高度成長を支え、経済大国日本を築きあげた一翼を担ったのは俺達だ…という自信と誇りをもって綴られたものあり、さらりとエッセイを寄稿した人もあり、地方にいて外出がままならぬ学友にとっては、古き誼みを温めるにはよい機会であった。

続けられるものなら続けてほしいとの要望もあったので、引き続き第二集、第三集を発刊した。Ａ５サイズで（夫々百二十頁、七十五頁、百五十頁）の冊子である。

例会に出席出来る学友は会って話をするのが何よりの憩いであり、学友とは良いものだという実感が湧いてくる。例会に出席出来なかった学友には出席者の集合写真と出席者個人のスナップ写真と、各人の近況報告を印刷して送付している。

物故された学友の奥方からは故人の日誌の中から参考になるものを送っていただき、一部を掲載し故人を供養している。

平成14年５月22日の例会

たそがれの人生である。夕陽の沈む美しさもある。元気なうちに少しでも憩いを、楽しさを求めようと例会も昨年より春、秋（五月二十二日、十月二十二日）二回行うことにして、故人の奥方にも参加して頂いている。会場変更はとかく道を探し迷う年令、会場も固定した。（虎の門の三井クラブ）夜道、人ごみは避けようと開催時間を十一時三十分～十三時三十分として足元の明るい時間に変更した。

ゴルフも年春秋二回実施して平成十四年三月で四十六回目になった。いつまで続くのか、最盛期は二十名を越えた参加者も、意欲はあっても足、腰、腕と云うことをきかなくなり、目下二組がヤットというところ。ヤセガマンもあり、誰かがヤメヨウというまでやるのではないか……

ＤＺ随想も平成十五年五月二十二日第四集を発行する予定である。思いついたままに書きたい人は書く、読むのはよいが書くのはメンドクサイ人には、外出がままならぬ学友のために、ハガキ一枚のつもりで是々非々の一日の様子でも書いて下さいと励ましたりしています。

俳句もよし、絵画もよし、（カラープリントで頁の中に綴れる）古き誼みを温めようとしています。

二人で一人前の年令になっているので、幹事も二人にしようということで奥出達都摩、鳥羽浩二人で担当している。

奥　出　達都摩
（機械工学科25年卒）

機械五十九年卒同期会

平成十四年五月十八日（土）、仙台で東北大学機械系同窓会が開催された際、二次会として機械工学科昭和五十九年卒業生の同期会が催されました。

正しくは、機械科の後輩諸君や、当日の二次会会場（さるホテル内の居酒屋）のホテルにたまたま宿泊場所を取っていた先輩も巻込んだので、「同期会」と呼ぶよりは更に幅広い方々の参加を頂いた会となりました。

当日は仕事の都合等で参加できなかった同期生も数多くいたため、この場で当日一日の様子をやや詳しくご紹介しようと思います。

その日はまず、午前中から青葉山の機械系構内にて、いくつかの研究室の見学会が行われました。筆者も時間の最後の方に少しだけ参加させて頂きましたが、あらかじめ見聞きして知ってはいるものの、我々の在学当時からある建物の内装が、今は見違えるほど綺麗になっていることに、改めて驚かされます。

但し実験室や学生の机の上の乱雑さだけは、当時のままだと感じ、安心出来ました。

その後、機械系を離れて山を降り、仙台駅そばの機械系同窓会会場へと向かいました。今回の同窓会における特別講演者は現東北大総長の阿部博之先生でしたが、筆者は旧機械工学科阿部研究室の出身であり、今回の同期会参加者もその多くが阿部研出身者で、恩師の講演をお聞きしようと集まった者達です。

その阿部先生からは、「私がここで発言すると、活字になる」と心配されながら、それでも大学改革で揺れる将来のことなど、いろいろと興味深いお話をご披露頂きました。

また、在学当時お世話になった先生方とも数多く歓談させて頂き、多くの先生方が、我々の卒業以来の年数を感じさせない若々しさを保っていらしたことに、一同皆驚かされた次第でした。

さて標題の同期会（二次会）は、この二次会から新たに加わった者も何名か居り、十数名程度でとり行われました。就職で仙台を離れた者が多いため、積もる話が続いて二次会では収まり切らず、続けて三次会（一部は四次会…）まで流れて行きました。

大学関係者は改革の波を受け、また企業関係者は不況・リストラの不安の中にいたりと、各者とも日頃は悩みの多い立場にいるはずなのですが、当日はそれらの思いも語り合うことで、この先の事に当たる上での心強い力を得たような気がします。

最後に当日の参加者、及び同窓会の運営に携わった方々に、改めて感謝いたします。

鏡　　優
（機械工学科59年卒）

精密三十三年卒同期会

一年前の年賀状でそろそろ同期会をやろうかと書いたのがきっかけとなり幹事を引き受ける事となった。住所録の修復に半年を費やし、卒業当時のクラス総勢三十名のうち消息が分かった二十七名に出したアンケートの意見を斟酌し、開催のキーワードを場所は仙台、時は春、恩師との再会と決めた。

殆どのメンバーが現役を離れたこともあり、どうせやるならとことん学生気分に戻って楽しむことにして、第一部コンパ、第二部母校訪問学生回帰体験、第三部恩師との懇談と欲張った企画とした。

▶心身ともに若々しい酒井㊧松井㊨両先生

平成十四年四月十五日関西、中京、関東地区から十五名が仙台秋保温泉ニュー水戸屋に現地集合。

前回の同期会から十数年振りの再会であったが、一瞬にして昨日別れたように打ち解け屈託がない。

宴会での話題は、もっぱら近況と将来がテーマとなった。ボランティア活動、旅行、登山、園芸、ゴルフ、つり、絵、コーラス、外国語の勉強など趣味趣向の類も多彩、中でも秀逸は伊藤雄介君のこの日のために作った淡彩画集の披露、藤原信彦君の阪神地震の体験談「朝、寝床で一服しているとゴーという地鳴りと同時にドーンと跳ね上げられた。タバコの火がきらきらと光り、何が起こったか分からない中で美しいと感じた…」など。

翌朝早めに宿のバスで青葉城址を経由し青葉山キャンパスに向かった。

機械知能系教室で初対面のメル友？洞口さん（同窓会事務局）の出迎えを受け、各研究室では先生、学生の方々から丁寧かつ熱心なご説明を頂いた。

ミクロンの世界からナノの世界へと進んだ精密計測、加工学、機構要素学の進歩、快適な研究環境、女子学生、外国人留学生の増加など四十年余の間の変化と母校の発展拡大に感慨深いものがあった。

午後、市内中華料理店翠林に会場を移した昼食会は昨夜来の懇親、母校訪問に加え酒井、松井両先生のご出席を頂き学生気分で大いに盛り上がった。

この場になると一同の話題は打ち解けた中にもやや緊張気味で、これまで携わってきた仕事についての報告調となった。昨夜とは異なる雰囲気がおかしくもあり、また、改めてこれまでの各人の経歴も分かり、その話し振りに昔とあまり変わらぬ個性を再発見し大いに楽しんだ。

酒井先生は手提げ袋いっぱいの手製のおもちゃを持参になりゴムピストルの連発機構、重力式四つ足自動歩行、一筆書きの独楽、下に糸を引っ張ると登る人形など、おもちゃ学の実習講義があり、松井先生からはこれまでの研究生活の話や健康法談義がなされた。

両先生の我々を凌ぐ若さと情熱を持ち、生活をエンジョイされている姿に接し、大きな感銘と鼓舞される思いを受けた。

かくして大いに盛り上がった同期会は店の時間切れまで粘って、三年後開催を約して散会となった。

矢野　洋
（精密工学科33年卒）

精密三十六年卒同期会

恒例のお開き合唱風景

第五回の精密工学科三十六年卒の同期会が二〇〇一年十一月十七日に鎌倉で開かれた。

前回の開催地は東京だった。その折「これからは、二年に一度開催しようよ」と言ったまま数年が経ち、久方ぶりの同期会となった。何故かわれわれ同期生には湘南の在住者が多く、鎌倉開催に際し色々と協力をいただいた。

今回からこの会に名前をつけようと言うことになって、三十六年に三十六人卒業した会なので「青葉山麓会」と名付けた。卒業四十周年でもあり、何時もの一杯会だけでは芸がないと言う気持ちもあった。そこで今回から夫婦同伴を歓迎、オプショナルツアーとして晩秋の鎌倉を愛でる健康ハイキングコースと観光コースを用意した。

案内を出したのは物故者二人と住所不明二人に自分を加えた五人を除き三十一人。出席の返事をくれたのは十七人で、奥方は同伴者が少なすぎて取り止め。第一回の夫婦同伴企画は頓挫した。

オプショナルツアーも初めての試み。当日は好天に恵まれ、三々五々北鎌倉駅に現れたのは十人。誰も来なかったらどうしようかと気をもむ幹事の心配は吹き飛ばされた。十人が何とくそれぞれのコースへ五人ずつに分かれたのはさすが。皆の気配りなのか偶然なのかは知る由もなし。

「健康ハイキングコース」のツアーコンダクターは鎌倉在住の飯田君と脚に自信の加藤君、「それなり鎌倉観光コース」の案内役は藤沢在住の佐藤君等が引き受けてくれた。

昼過ぎからテクテク歩いて一汗かき、それぞれのコースとも無事に夕刻宴会会場へ到着した。

会場に直行していた七人と合流し宴会開始。あまり酔いの回らぬうちにと、卒業以降初めて参加の荒川忠男君も含めて全員が制限時間三分の近況報告をした。久方ぶりの話は古きよき仙台の思い出の数々から、職場で改革に苦労している現役諸君の話、はたまた長い宮仕えから解放された諸君の将来像、と尽きることがなかった。

最後はコーラス部に居た阿部君が用意してくれた「青葉燃ゆる…」の楽譜を見ながら合唱、いつもの通り彼の名指揮で締めくくられた。

別れがたい何人かが、鎌倉駅の辺りでもう一杯飲みながら「次回の青葉山麓会は、新潟の長岡で花火を見物する会にしよう」という話で盛り上がった。しかし、世の中変化の激しい昨今のこと、次回の青葉山麓会は何時何処でどうなるやら、楽しみである。

柿崎　忠彦
（精密工学科36年卒）

機械Ⅱ四十二年卒同期会

01年度東日本地区同期会幹事から

1．我々の同期会

卒業以来三十年になるある日、突然、幹事の増田君から電話が来た。「そろそろ同期会をやるので参加して欲しい」とのことである。三十年の歳月は夫々をどう変えたのだろうか、興味は尽きない。この同期会の開催前に、増田君からの連絡で首都圏に勤務している仲間が、新橋に集合して一杯飲み交わす機会があった。彼が関西勤務のときに、周辺の仲間に働きかけて同期会を企画し実施してきたが全国規模の同期会をやることにしたこと、同期会の名簿作りに全員がフォローしきれていないこと、東日本地区で同期会を作りたいこと等が報告された。多忙な会社勤務の合間に駆け回っている増田君他幹事の方々のご苦労に感謝するしかない。第一回の全国規模同期会は九十七年十月、場所は仙台で実施された。東北大学の構内見学もスケジュールに入っており、久しぶりの大学訪問が嬉しかった。

これを機に、東日本地区同期会がスタートした。毎年秋に、場所を変えて実施している。幹事は持ち回りで千葉、鈴木、竹内諸君が担当してきた。00年度の同期会で次回にその役割を引き受けることにした。開催時期は十一月、場所は伊香保温泉に決定した。

2．準備

六月に案内と出欠確認の往復葉書きを出す。回答では、出席者は十六名となる。

幹事会を開く。幹事会は、これまでの幹事経験者と在京者で集まり、諸事の相談をする。集合場所・時間は定例になっている。開催の案内にはeメールを使うことにした。手紙では返事を受け取るまで時間が掛かりすぎるし、電話では相手が不在だったり連絡がとれない場合がある。家でもメールを使えるようにしたが、娘に独占されていたから、これで親も使う頻度が増え一目置かれることになる。

七月になって、現地を訪問してみることにした。関越自動車道を渋川Ｉ／Ｃで降り渋川駅前の観光案内所に飛び込んで、主だった旅館を紹介してもらう。結局、伊香保で由緒があり、親身に相談にのってくれた某旅館に決める。このあと、当日までの旅館とのやりとりも全てeメールで進めることにした。

3．当日

結局十三名の懐かしい面々が、時間通り十三時、渋川駅に集合してくれた。早速、チャーターしたマイクロバスで市内周辺の観光をする。伊香保には大正ロマンを生んだ竹久夢二記念館や、徳富蘆花記念館などの文化施設や、榛名山に代表される自然がある。運転手自身がガイドしながら盛沢山の幹事指定コースを時間に追われながら回ってくれ、宿に着くころには回りは暗闇になっていた。

宴会が始まる。先ずはビールで喉を潤す。雑談の合間、小松君が最近始めたというフルート演奏を披露してくれた。談話の中から健康の話に移った。この歳になると、血液の管理が大切でサラサラ状態に保たないと脳梗塞とか血液絡みの成人病になってしまう。こうならない為には、食べ物では大豆や海鮮もの、他にこれこれを食べると良い等、この方面に蘊蓄のある仲間の話に耳を傾ける。飲み放題の酒は進まず、目の前の焼き肉にも手を出さない（丁度、狂牛病で騒がれた時期であった！）人もいて、それぞれがそれなりの健康への配慮をしている様子が伺えた。

宴の席

榛名山を背景に

宴会は終わった。

次の日、快晴に恵まれ全員で伊香保の街を一望できる近くの山に登った。ケーブルで登り、下りは徒歩で階段を降りてきた後、膝が笑った。

楽しい時間はあっという間に過ぎる。また、仲間と会える日を楽しみに駅で別れた。同期会は、同時期に同じ船に乗りあわせた仲間と様々な経験を共有し、その時代や齢に応じた話題を楽しむ、そんな場がつくり出せれば良いのではないでしょうか。これからの幹事の皆さん、よろしくお願いします。

尚、第二回の全国規模同期会を十月予定しており、五年振りに全国の仲間が集う日を楽しみにしております。

廣木　千明
（機械工学第二学科42年卒）

写真提供／千葉文紀

平成14年度通常総会予告

平成14年度通常総会は平成14年５月17日(土) ホテルサンルート東京にて開催されます。多数会員のご出席をお願い致します。

記

期　　日　　平成15年５月17日㈯

14：30－15：00　総会
15：00－16：00　講演会
16：00－18：00　懇親会

講 演 会
講　　師：豊田工機株式会社　取締役社長
湯野川孝男氏　(機械工学科 昭和37年卒)
タイトル：「私の経営とものづくり」
（２年前就任した豊田工機の社長としての経営に対する考え方と今後の日本のものづくりのあり方について私見を述べる。）

総会・懇親会会場
ホテルサンルート東京（新宿駅南口）
〒151-0053　東京都渋谷区代々木２－３－１
Tel：03－3375－3211

会　　費　　10,000円（年会費2,000円を含む）

連 絡 先　　東北大学機械系同窓会事務局　洞口明子
Tel/Fax　022－217－6926

会員の訃報

（敬称略）

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（平成13年10月同窓会ニュース第7号発送後事務局で入手したものを掲載しました。）

佐々木達郎	(機T14)	平7・6	長尾　又衛	(機S28)	平12・5・22
石原　康正	(機S14)	平14・2・23	佐藤　孝	(機S29)	平13・11・11
本間　喜一	(機S15)	平14・7・7	千葉　茂	(精29S)	平14・1・9
妻木　義彦	(機S16)	平14・4・7	山本　雄三	(機S30)	平14・1・30
岸本　博	(機S16)	平14・3・21	杉山　俊雄	(機S31)	平14・1・21
早川　栄一	(精S20)	平13・11・4	影山　一郎	(機S32)	平14・2・26
平田　穣	(精S20)	平14・1・30	佐々木弘蔵	(精S34)	平14・1・5
中村　延司	(機S20)	平13・7	青木　秀喬	(機S45)	平4
齊藤　信	(機S21)	平14・2・17	平野　達夫	(精S53)	平13・12
鈴木　重雄	(機S23)	平14・7・3	伊藤　賢治	(機S61)	平13・11・28
冠木　善彦	(精S23)	平13・10・13	千国　真	(機IIS62)	平13・12・10
宇佐見久雄	(機S26)	平14・2・23	土井　嘉久	(機H3)	平13・4・21
坪田　外美	(機S27)	平13・10・16	黒田　行郎	(機博H10)	平11・7・1
河内　英郎	(機S28)	平13・5・10			

会員死亡の時、氏名・学科名・年次・死亡日・住所をご連絡下さい。会長名の弔電を差し上げます。

（連絡先）
東北大学機械系同窓会事務局　洞口明子
電話・ＦＡＸ〇二二－二一七－六九二六

平成十三年度通常総会報告

（敬称略）

平成十三年度通常総会は、平成十四年五月十八日（土）、マークスGホテル仙台にて開催された。出席者は、機械四十八名、機械II八名、精密系三十五名、機械電子二名、現役教官九名の計百二名であった。

第Ⅰ部　総会の行事
（十五時～十五時三十分）

司会の山中将（精61）が開会を宣言して、最初に鈴木孝（工力27）が会長（代理）挨拶を行い、引き続き鈴木副会長が議長席について議事を進行した。

第一号議案
「平成十三年度事業報告」
「同右　出版事業報告」

第二号議案
「平成十三年度決算報告」
「同右　監査結果報告」
を各担当役員がそれぞれ報告し承認された。

第三号議案
「役員の改選」
会則により、会長は平成十三年度をもって任期満了となったので改選を行い、鈴木孝副会長が会長に選出された。また、鈴木副会長の後任に、永井伸樹（精29）が選出された。その他の改選を含め、新任は次の通りである。

（新任）
会長　鈴木孝、副会長　永井伸樹、幹事　人見宣輝（精37）、及川忠雄（精40）、遠藤規美（機II50）、吉田和哉（現役教官）、監事　佐藤裕久（精40）

第四号議案
「平成十四年度事業計画提示」
「同右　予算案提示」
を各担当役員が行い、それぞれ承認された。当初予定されていたもの以外には議題が無く議事は予定通りに終了した。

第Ⅱ部　特別講演
（十五時三十分～十六時四十五分）

東北大学　阿部博之総長（機34）を講師として招き、「ノーベル化学賞連続受賞と科学技術創造立国」と題した特別講演が開催された。講演に先立ち、猪岡光（機38）から講師の紹介があった。引き続き阿部講師から、最近ノーベル化学賞を受賞された白川先生と野依先生について両先生の経歴の違いについての興味深い話、東北大学機械系の先輩教授の偉業を称える話、そして大学における「教育と人材の育成」の必要性などの話があり、最後に独立法人化後において同窓会はますます重要になることを強調されて講演が終了した。参加者は満席のなか貴重な話に聞き入っていた。

第Ⅲ部　懇親会
（十七時～十八時三十分）

川野聡恭（機II62）が司会を担当して、鈴木孝新会長の挨拶ならびに永井伸樹新副会長の乾杯で開宴した。その後、松浦高雄（精20）、川口邦供（機22）のテーブルスピーチが行われた。ひとしきりの歓談の後、大学職員を代表して内山勝（現役教官）が機械系三専攻三学科の現状を説明した。宴もたけなわとなる中で、鏡優（機59）を代表とする機械工学科阿部研究室卒業生を中心とした同期生九名が壇上に立ち、東北大学学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を全員で唱和した。大いに盛り上がり語らいも尽きない中、石井敏夫副会長（機26）による閉会の辞をもって、盛会裏に終了した。

平成13年度収支決算

自　平成13年４月１日
至　平成14年３月31日

収入の部

費　目	予算額	収　入
前年度繰越金	16,775,971	16,775,971
会費	7,000,000	4,717,000
広告収入	700,000	789,370
総会開催費	800,000	624,000
銀行等利息	8,000	24,432
合計	25,283,971	22,930,773

支出の部

費　目	予算額	支　出
事務経費	150,000	182,656
会誌発行費	1,600,000	1,000,000
ニュース発行費	400,000	399,997
封筒等印刷費	500,000	0
発送費	1,600,000	1,609,600
総会開催費	1,500,000	580,665
各種手数料	100,000	84,245
東京事務所活動支援金	300,000	300,000
卒業生祝賀会支援金	200,000	200,000
講演会開催費	100,000	0
人件費	1,800,000	956,146
会議費	300,000	91,307
予備費	1,000,000	80,651
次年度繰越金	15,733,971	17,445,506
合計	25,283,971	22,930,773

事務局より

◎同級会(同期会)ニュース
報告・記事の原稿を投稿して下さい。字数八百字－千字位、記念写真一葉といっしょに。封筒に原稿在中と明記のこと。

（送り先）
〒980-8579　仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
事務局　洞　口　明　子
Tel/Fax 022-217-6926
E-mail　: dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ: http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/

◎同窓会誌にご投稿を！
テーマ自由。約２千字。封筒に原稿在中と明記のこと。
送り先　上に同じ。

◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あて回送手続きをとって下さい。

◎海外に駐在される方は、駐在先の住所を連絡してください。帰国後は直ちに現住所をお知らせ下さい。

◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させて頂きます。

編集後記

同窓会ニュース第八号をお届けします。今回から封筒が新しくなりました。紙面も全面カラーになりました。封筒のデザインは、現在機械系二号館のロビーに展示されている、三枚羽のサイクロイド歯車をモチーフにしています。タイトルバックにも歯車のデザインをあしらってみました。

内容も、運動会やオープンキャンパスなど、機械系の現状を紹介する記事を多く取り入れてみました。最後になりましたが、ご執筆の皆様に厚く御礼申し上げます。

（吉田　和哉）